

り、日本人の女子の平均体質指数(四〇〜四一)に比較すると極めて高い。すなわちS.E.的である。なお体質の分布において都会地と農山村では山村にS.E.傾向あり、長野県は一般に指数が高い。特に諏訪地方は高い。(新潟大学公衆衛生教室調査)

本研究は単に保母の特性のみならず地域性をも密接に反映しているものと思われるので、他の地域における同様の調査研究と比較してみたいと考える。

②学生の体質において二年間の研究を通してみると、二年生が一年生よりS.E.的である。これはクラスの構成人員によるものだけでなく、二年生になると、よりS.E.化するという一般傾向を得た。これは当学院の環境による体質の動態とも考えられるが、なお、個人的追求の必要を認める。

③体質評定の結果、S.E.体質の者は興味テストの調査において機械的、研究的領域に、W.M.体質の者は、社会的対人的芸術的領域にそれぞれ得点を高く示す傾向がみられるという体質と興味についての関連性をみた。

## 保育所保母の実態について (1)

日本福祉大学  
土方康夫

保母の資質向上を阻む諸条件を明らかにするために、保母の実態を知ろうとすることが本調査の目的である。

調査は質問紙法により、愛知県下の保母に平均に行渡るよう保母の会を通じて配布した。回収されたものは七七施設二三名で回収率は五一、三%である。

### I 一般的事項

(1)年令 平均年令は二八才で、都市より郡部の方が若い。  
(2)学歴 八五%以上が旧制高女あるいは新制高校を卒業し、検定試験で資格をとったものである。  
(3)保母になった動機 「性格が合う」などの個人的な動機が多く、社会的意義にもとづく、もっと積極的な動機は少ない。

### II 勤務状態

(1)勤務時間 平均九時間五〇分の労働時間であり、しかも超勤手当があるのは全体の四四%に過ぎない。  
(2)産休についてみると市一公が五七、四%で、郡一公、市一私、郡一私と実施率は急激に落ち、郡一私に至ってはいずれの休暇も皆無。給料や夏期・年末などの手当についても郡一私是最悪の条件におかれている。

### III 健康状態

八〇%以上の保母が、朝起きたときに前日の疲労を時々、もしくはいつも感じると訴えている。保母になってから起りやすくなった健康障害としては、胃病、のどの痛み、風邪をひきやすい、月経周期の不順、イライラしやすいなどが挙げられる。

調査対象

設立主体別	地域別		地位別			年令別										不明			
	市	郡	主任 保母	助手 保母	補助 手	19	22	25	38	31	34	37	39	50					
公立	26	25	51	143	80	72	141	10	14	63	37	30	19	14	10	31	4	1	
私立	29	27	28	28	26	34	25	20											

××